

城下町の名物



ぷりぷりの刺し身をご飯と一緒にかきこむ

鯛めし

愛媛県の郷土料理、鯛めしは地域によってスタイルが異なる。東予・中予地方が一尾丸ごと焼いた鯛をご飯と一緒に炊き込むのに対し、南予地方では卵を溶いたしょうゆだしに刺し身をさっと漬けて熱々の白飯に載せ、その上からさらにだしをかけて卵かけごはん風。平安時代、海賊たちが酒盛りの締め船上で食べたのが始まりという。

◆宇和島鯛めし協同組合 ☎0895-24-0028

注目スポット



角で激しく突き合う手に汗握る迫力満点の取組
宇和島市営闘牛場

牛と牛が巨体をぶつけ合い、土煙が舞う。宇和島の闘牛の発祥には諸説あるが、藩の古文書には19世紀初頭の享和年間、すでに本格的に行われていたことが記されている。1975年に完成した全国初の全天候型の闘牛場では年5回の定期場所を開催。

◆宇和島市和霊町496-2 ☎0895-25-3511
◆定期場所/正月(1月2日)、春(4月第1日曜)、和霊大祭(7月24日)、盆(8月14日)、秋(10月第4日曜)
※変更する場合あり ◆入場料/高校生以上3,000円(前売り2,500円)、中学生以下無料

主なスポットには駐車場があるが、できれば歩いて回りたい。じゃこ天の店を探したり、路地から天守の姿を仰いだり徒歩ならではの楽しみがある。



天救園

【てんしゅえん】

7代藩主、伊達宗紀が造った池泉廻遊式の庭園。池の周りには伊達家の家紋「竹に雀」にちなみ、多数の珍しい竹が植えられている。藤の名所としても知られ、4月初旬から中旬にかけて、池に架かる太鼓橋は白玉上り藤に彩られる。

◆宇和島市天救公園 ☎0895-22-0056
◆開園時間/8:30~16:30(4月~6月は17:00まで)
◆休園日/12月第2月曜~2月の月曜、12月28日~1月1日
◆入園料/大人500円、高校生300円、中学生200円、小学生100円



天救園通りの古い町並み。

約3分



グルメ

散策中に小腹が空いたら、ぜひ名物のじゃこ天を。城下町には専門店が多数あるので、店頭で揚げている熱々をいただく。



辰野川沿いは寺町の風情が残る。

約25分

約10分

龍光院

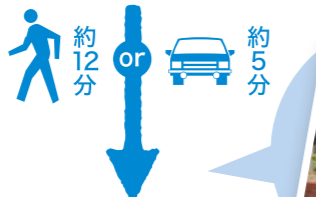
【りゅうこういん】

伊達秀宗が初代藩主に就いた翌年の1615年、宇和島城の鬼門に当たる場所に藩の安寧と領民の安泰を祈願して建立され、以後、伊達家の祈願所となった。松尾芭蕉の母が宇和島出身であることにちなみ、境内には芭蕉の句碑が立つ。

◆宇和島市天神町1-1 ☎0895-22-0527



宇和島は「鉄道唱歌」の作詞者、大和田建樹の出身地。駅前には軽便鉄道時代のSLのレプリカとともに顕彰碑が立っている。



約12分

約5分

和霊神社

【われいじんじや】

日本最大といわれる高さ12メートルの石造りの鳥居が目印。伊達秀宗に仕えた山家清兵衛を祀る。清兵衛は秀宗の父、政宗がお目付け役とした重臣で、藩政の安定に手腕を発揮した。しかし、1620年に凶刃に倒れた後、事件に関与した者が相次いで海難や落雷で変死。清兵衛の怨霊だと恐れられる人々により、53年に創建された。7月23日、24日の「和霊大祭」は四国屈指の祭りとして知られる。

◆宇和島市和霊町1451 ☎0895-22-0197



土、日、祝日に宇和島城のボランティアガイドをしています。標高80メートルにある天守は現存12天守の一つで、最上階からは市内を一望できます。

うわじま道先案内人 高橋 敬さん

宇和島

愛媛県宇和島市

美しい天守を仰ぎ
南国に根付いた
伊達家の足跡をたどる



歴史

941年に警固使、橘遠保が藤原純友の乱の際に岩を構えたのが最初。1595年、豊臣秀吉から城主に任命された藤堂高虎が初めて天守を築く。1614年に伊達政宗の長男、秀宗が初代藩主として入封。71年、2代目の宗利による10年がかりの大改修が完了。現在も天守はその姿をとどめている。

ゆかりの武将

伊達秀宗 1591年~1658年

仙台藩主、伊達政宗の長男。1614年の大坂冬の陣では政宗と共に徳川側に付く。政宗には軍功として幕府直轄地の宇和郡10万石が与えられ、それを譲り受けて初代宇和島藩主に。明治維新までの伊達家9代にわたる藩政の礎を築いた。



宇和島市立伊達博物館

【うわじましりつだてはくぶつかん】

宇和島伊達家に残る甲冑や武器、調度品、婚礼道具など約4万点を所蔵。9代藩主、宗徳の婚礼の際に使われた駕籠は必見。全面に金張り細工が施され、「動く御殿」の異名を取った。

◆宇和島市御殿町9-14 ☎0895-22-7776
◆開館時間/9:00~17:00 ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日)、年末年始 ◆入館料/大人500円、高・大生400円

上り立ち門から
約5分

城FILE 6
宇和島城

別名 鶴島城
構造 梯郭式平山城
天守 層塔型3重3階
(国指定重要文化財)
築城者 藤堂高虎
築城年 1601年
遺構 天守、門、石垣



現存する建造物は天守と、城山の南側にある上り立ち門のみ

宇和島市丸之内1 ☎0895-22-2832
◆入城時間/9:00~17:00(11月~2月は16:00まで)
※開門は6:00~18:30(11月~2月は17:00まで)
◆休城日/無休
◆入城料/大人200円、中学生以下無料
◆アクセス/宇和島道路「宇和島朝日」ICから約5分

白亜の天守を頂く城山を中心に広がる市街地。豊臣秀吉から領地を与えられた「築城の名手」藤堂高虎は1601年、6年の歳月をかけて強固な城塞を築いた。1614年に伊達政宗の長男、秀宗が初代藩主に就くころには世も落ち着き始め、2代宗利によって改築された現在の天守は、千鳥破風や唐破風といった装飾がしつらえられる一方で、狭間や石落しなどの防御機能は一切排除された。

明治維新まで続く宇和島伊達家の隆盛ぶりを伝えるのが、城山の南に立つ伊達博物館だ。歴代藩主の甲冑や婚礼道具などを展示。懐剣一つとっても柄や鞘に蒔絵が施されるなど、いずれの品も贅の限りが尽くされている。隣接する天救園は7代宗紀が造った庭園。春には藤や花菖蒲が咲き誇り、多くの人出でにぎわう。

天救園から古い町並みを抜け、市街の東側を流れる辰野川に出る。かつて寺町だった川沿いには伊達家ゆかりの寺社が集まっている。せせらぎを聞きながら、下流にある伊達家の祈願寺、龍光院へ。煩惱の数に過去・現在・未来の三世を足した1111段の石段が境内へと続く。高台から望む城山。古くから「鶴島城」の名でも親しまれてきた名城は、昔と変わらない美しさを城下に誇示している。



高虎時代に築かれたといわれる三の丸の石垣